

理念

人間を大切にせる企業風土をつくり、
人間を幸せにする企業を目指します。

指針

1. 何事にも積極的に挑戦します。
2. 創造力を働かせ、新しい価値を創っていきます。
3. 地域と共に生き、地域に貢献できることを喜びとします。

発刊に寄せて

院長 三浦 進一



この度、医療法人惇慧会外旭川病院の
今を伝える広報誌「外旭川病院だより」
を発行することになりました。従来は当
院の属する医療法人惇慧会と株式会社
フォーエバー合同の広報誌として発行し
ている「WITH YOU」の中に掲載してお
りましたが、これからはこの広報誌もぜ
びご利用ください。

当院の前身は昭和45年10月に開設され
た勝平中央病院であり、昭和50年に医療
法人惇慧会を設立、現在の病院は昭和63
年10月に現在地に移転、外旭川病院と改
名しました。秋田市北部の医療圏にあっ
て、一貫して療養病床を中心とした急性
期病院からの人工呼吸器管理や中心静脈
栄養管理、酸素療法などが必要な重症患
者さんの治療を引き継ぐ後方支援病院、

高齢者の急性期医療を担ってまいりまし
たが、平成10年12月の増築時に秋田県で
は初の緩和ケア病棟（ホスピス）13床を
併設しました。さらに緩和ケアのニーズ
の高まりに応えるべく、平成19年6月に
増床、現在は207床の療養病棟と34床の
緩和ケア病棟から成り立っております。

超高齢化を迎えた秋田県にあって、こ
れから求められるのは急性期一辺倒の医
療からより患者さんに寄り添った質の高
い医療の提供です。現在、国の方針で地
域医療構想策定による医療機関の再編計
画、また地域の实情に合った地域包括ケ
アの構築が進んでいますが、私たち外旭
川病院は医療・介護・福祉の一体となっ
た「ほぼ在宅、時々入院」といった地域
包括ケアシステムの担い手に相応しい存
在となれるよう、慢性期医療を中心とし
た療養病床としての医療の質の向上に努
める一方、がんの緩和ケアにおいてはこ
れからも秋田県のリーダーとしてホスピ
スマインドの普及に努めてまいりたいと
考えております。ぜひこの小誌を通して
当院の診療、サービス内容を知っていた
だきたいと存じます。



惜しみない愛で応える看護部



みなさま こんにちは 看護師の大山京子と申します。外旭川病院に入職して3年経過しました。今の私は、人生のテーマでもありまた、医療従事者としてのテーマでもあります「緩和と倫理」を学べる環境にいられることに感謝でいっぱいです。私は県南の西馬音内盆踊りで有名な地域で育ちました。そこは昔も今も変わらずとても穏やかな田舎町です。

さて、地域のみなさんには、2点についてお話をさせていただきたいと思えます。

①私たち看護部が外旭川病院理念を通して目指しているもの

外旭川病院理念

人間を大切に企業風土をつくり、
人間を幸せにする企業を目指します

人間、即ち患者さん・ご家族・職員を大切にかつ幸せに導かせていただく努力。その病院理念に向かうべく看護部の理念は、それぞれの立場に立ち、考え行動できる優しさ・倫理観・自律をキーワードになっております。もちろんこの対象は患者さん・ご家族、そして職員間も同様です。

看護部の理念

全ての対象者に優しく
そして倫理的配慮のできる
自律した看護集団をめざします

②これからの福祉・医療のあり方に参画していきたい

「いのち・暮らし・尊厳を まもり支える看護」
(公益社団法人日本看護協会)

看護協会はこれからの看護にこのような目標を掲げております。

わが国、わが秋田、わが秋田市における、高齢化・少子高齢化の進展・がん患者数等人口構造の変化と、近年の経済状況は、保健・医療・福祉にも大きな影響を及ぼしています。このよ

うな中でこれからは住み慣れた地域において受療しつつ療養し、疾病・障がい・老々介護を抱えながらも自宅で療養生活の継続、そして人生を全うするまでを、地域で支えるということが言われています。

広い意味の「看護（ケア）」は、人が人の世話をすることであり、家族や隣人による見守りや支援も含まれます。私たち看護師は病院内だけの活動ではないということです。

惜しみない看護の提供が責務

理念に向かいながら惜しみない愛で時にはご家族と共に関わらせていただきたいと考えております。

4階に私のお部屋があります。ご連絡いただければいつでも対話の時間を創らせていただきます。町内会長さん始め地域の婦人部の方、子供会の方、私たちに具体的な活動の場を検討し合うための声を聴かせていただきたいと思えます。地域に参画させてください。どうかご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

大山 京子

TEL.018-868-5511

ohyama-k@jkk-sotohp.or.jp



専門看護師スタッフより一言

認知症看護認定看護師としての私

認知症看護認定看護師 石川 和子



みなさん、こんにちは。認知症看護認定看護師の石川和子です。私は、昨年7月に認知症看護認定看護師として認定され、病院内の活動や地域での講演会を行っています。

院内の活動は、「認知症ケアチーム」として治療のために入院した認知症の患者様に対し、認知症状の悪化予防と治療が円滑に受けられる事を目的として活動しています。季節を感じて頂けるように「節分の鬼の面」や「雛人形」、「こいのぼり」などをベッドサイドに持ち込み喜んでいただいています。認知症があっても穏やかな毎日を過ごすことができるように環境を調整し、病棟スタッフや多職種と情報を共有しながら対応しております。

現在、日本の認知症高齢者数は462万人

で、2025年には約700万人にも上ると推計されています。65歳以上の高齢者の約5人に1人が認知症と身近な病気となった今、大切な家族や親戚の方、友人、近所の親しい人が認知症という方も多いのではないのでしょうか。また、現在、認知症の家族を抱え悩んでいる方が近くにいるのではないのでしょうか。

当院では今年度から「認知症相談」を開始し、認知症に対しての相談事を受け付けています。「こんな事聞いたら恥ずかしい・だれにも知られたくない・相談できる人がいない・物忘れがひどくなったと感じる」など不安や悩みをかかえている方の相談を伺いたいと思います。

認知症の方を含めた周りの方が、幸せになれるようにお手伝いしたいと思います。

感染管理認定看護師として

感染管理認定看護師 水澤 肇



皆さんこんにちは。昨年、北海道医療大学感染管理認定研修センターを無事に終了し、今年7月に感染管理認定看護師に認定されました。

感染管理認定看護師は 専門的な知識と技術を用いて患者、来院者、医療従事者、施設、環境を対象に感染に対するリスクを最小限に抑えるため、正しくかつ効率的な感染管理を（計画、実践、評価し、提供する）サービスの質の向上を図る、といった重要な責任を持っています。感染対策は一人ではできません。組織的に行うことで、より効果的な対策が行えます。とはいえ、まだ1年目で、自身の乏しい知識をどのように活用していけばよいのか手探り状態です。病院の皆様や地域の方々、周辺医療機関の感染管理認定看護師の先輩の助言をいただきながら、当院の感染対策に努めていきたいと考えています。



入院生活を快適するための余暇活動の取り組み

新3病棟看護主任 鎌田 聖子

療養病棟に入院される患者さんの大半は慢性疾患と心身の機能低下により、寝たきりの状態を余儀なくされています。私たちは日々、そういった患者さんと向き合いながらその人らしく、できる限り満足した生活が送れるよう、患者さんの人生観や価値観を尊重することを大切にしながら関わっています。

患者さんのご趣味を活かした個人的な活動のほか、病棟のフロアに季節感のある飾り付けを施した行事、各患者さんの誕生日に合わせた写真撮影や誕生患者さんを囲んでハッピーバースディの歌をうたいお祝いします。また、休息の合間や入浴中に音楽を流したり、楽器を用いて一緒に歌ったりと音楽の癒しの力を療養生活に取り入れた活動も行っています。今年度は、初めて各療養病棟が合同で夏祭り・秋祭りを開催しました。リハビリ科による運動機能をつかったゲームやスタッフによる盆踊りの披露など、参加した患者さんやご家族には大変好評でした。ある男性患者さんはお祭りの数週間前に病状が悪化し、全く起き上がることが出来ない状態になってしまいましたが、ベッドごと会場へ移動し、奥様とご一緒に参加されました。終始、笑顔で涙を流す患者さん、その横で静かに涙する奥様の姿が印象的でした。参加のあと間もなくその患者さんは他界されましたが、後日奥様から「あの日は本当に有難うございました。



主人と最後に楽しい思い出ができました。外旭川病院に入院できて本当に良かった。」とお言葉を頂き、病棟スタッフの『ご夫婦で最後に思い出を作って欲しい』という想いが届いたのだと感じた瞬間でした。

患者さんの笑顔、ご家族の温かいお言葉が私たちの喜びであり、明日への活力になります。これからも患者さんのその人らしさを大切に、入院生活に潤いや楽しみ、安らぎを感じていただけるよう活動に取り組んでいきたいと思えます。



編集後記

この度、広報誌を発刊するにあたり「外旭川病院だより」として創刊いたしました。当院を利用してくださる皆様や支えてくださっている地域の方々に信頼される病院であるために、今後も精進して参ります。

発行：外旭川病院 / 編集：広報・地域交流委員会 お問い合わせ：018-868-5511